

形容詞由来の不変化詞 *gleich* を持つ不変化詞動詞

Partikelverben mit einem adjektivischen Partikel *gleich*

時田 伊津子

1. 導入

本稿では、不変化詞として形容詞由来の *gleich* をもつ動詞を対象とし、不変化詞あるいは不変化詞動詞が与格の項の実現とどのように関連するかコーパス分析をもとに明らかにすることを目的とする。

まず、不変化詞動詞という用語から確認する。不変化詞動詞 (Partikelverben) とは、複合動詞の一種で不変化詞 (Partikel) を伴う動詞のことを指す。Duden Grammatik (2009: 696f.) は「形態的、統語的に分離できる第一要素を伴う複合動詞」 („komplexe Verben mit einem morphologisch und syntaktisch trennbaren Erstglied“) であると述べ、例として *ausreisen*, *hinausgehen*, *krankschreiben*, *teilnehmen* 等を挙げている。これらの例からも分かるように、不変化詞動詞は大部分において従来から分離動詞と呼ばれるものと重複する。この第一要素である不変化詞、すなわち分離動詞の前綴りに相当するものは先行研究では様々な名称で呼ばれているが¹⁾、本稿では「動詞不変化詞」もしくは「不変化詞」と呼ぶ。このような動詞不変化詞には、前置詞由来 (*ausreisen* の *aus* 等) のほか副詞 (*hinausgehen* の *hinaus* 等)、形容詞 (*krankschreiben* の *krank* 等)、名詞 (*teilnehmen* の *teil* 等) 由来のものがある。なお、「第一要素が分離できる複合動詞」と認定されるかどうかには、正書法も関わっている。1998年の正書法改訂以前は「第一要素」が動詞の場合も *spazierengehen* のように一語で書かれていたが、新正書法では基本的に分かち書きをし、例外として *stehen bleiben* や *kennen lernen* のような場合 (語義によって) 一語で書くことも認められる²⁾ (Duden Rechtschreibung 2017: 52)。

2. 先行研究：不変化詞動詞の分析

このような不変化詞動詞についてはこれまで多くの文献で扱われている

(Stiebels 1996, Lüdeling 2001, Felfe 2012 等)。その際、とりわけ前置詞由来の不変化詞を伴う動詞が議論の中心となっているが、形容詞由来の不変化詞はどのように記載されているだろうか。本節では、形容詞由来の動詞不変化詞について、また不変化詞による項の変更について先行研究の記述に触れる。

形容詞由来の不変化詞動詞については、前置詞あるいは副詞由来と異なり生産性が低く、例が少ないことが指摘されている (Stiebels 1996: 38)。また、結果構文との関連についても言及がある。例えば岡本 (2001: 3ff.) は、形容詞と動詞からなる派生動詞を3つのタイプに分類している: 「接頭辞動詞³⁾として語彙化されているもの」(第1類), 「『分離動詞』でありながら、意味的には、派生動詞全体が状態の解釈を持ち、動詞はコンピュータとして機能」し、形容詞が「状態描写としての意味を付加しているもの」(第2類), 「V (動詞) の表す行為の結果がA (形容詞) で表されて」いるような「結果構文と見なされる」もの (第3類) である。第2類と第3類の区別は基底動詞の性質によって左右されるという。以下の例文 (1) の a 文は halten が使われ、「強盗を (きつく) 捕まえておく (=つかんで離さない)」という状態描写である⁴⁾。一方、b 文は binden が使われ、「きつく垣根と接した状態」に変化したことを表す結果構文だという。この b 文のような結果構文は、不変化詞が前置詞の場合でも見られる。例文 (2) では「のこぎりで枝を切った結果、枝が取れた状態」が表されている。不変化詞が前置詞由来の場合、「結果状態が位置変化と明確に結びついている点が特徴的である」と指摘している (岡本 2001: 9)。

(1) a. Ein mutiger Mann hielt den Einbrecher fest.

b. Er band den Hund am Zaun fest.

(2) Er sägte den Ast ab.

なお、不変化詞の一部が結果状態を表すことは、Lüdeling (2001: 148ff.) , Felfe (2012: 176f.) などにおいても言及があり、不変化詞動詞の構文と結果構文との類似については Müller (2006) 等でも分析されている。Lüdeling (2001: 153) は通常の結果構文と不変化詞動詞の結果構文の違いについて、後者では不変化詞が意味的に独立しておらず、多かれ少なかれ語彙化されていると述べている。また不変化詞が副詞として機能する場合、同様に不変化詞の意味的独立性はなく、語彙化しているという (Lüdeling

2001: 156)。

不変化詞動詞の構文では、不変化詞の付加によって動詞の項が変更されることがある。例えば、Lüdeling (2001: 27ff.) でも指摘されているように、不変化詞は前置詞句の代わりに実現することがある。以下の *stellen* の文では、対格の項だけでは非文法的だが、前置詞句が実現すると容認され、同様に方向の不変化詞が伴う場合も認められる。

- (3) a. *Der Prinz stellt die Flasche.
b. Der Prinz stellt die Flasche {auf den Tisch/ins Regal}.
c. Der Prinz stellt die Flasche {ab/hinein/zurück}.

また、不変化詞の共起によって基礎動詞に比べて項が追加される場合もある。その典型は他動詞化 (対格目的語の追加) であるが、与格目的語が追加されることもある。以下の自動詞 *stehen* の例では、不変化詞 *zu* あるいは前置詞句 *zur Verfügung* が加わることによって与格の項 (Dornröschen) が実現できる。なお、この場合、動詞 *stehen* の意味も不変化詞や前置詞句によって影響を受ける (Lüdeling 2001: 33)。

- (4) a. Dornröschen steht.
b. Das Schloß steht Dornröschen zu.
c. Das Schloß steht Dornröschen zur Verfügung.

この例と同様に、他動詞文でも不変化詞の存在が与格の項の実現を支えることがある。次の例では、不変化詞 *gleich* によって動詞 *stellen* が意味的な影響を受け、与格の項が実現できるようになる。

- (5) a. *Sie stellen den Abschluss dem Diplom.
b. Sie stellen den Abschluss dem Diplom gleich.

この文では不変化詞が形容詞由来であるという特徴はあるが、与格の項の実現が不変化詞を前提とする点は先の例文 (4) と同様である。

本稿では、このような形容詞由来の不変化詞 *gleich* と、文中の与格の実現にはどのような関係があるのか調査する。

3. 分析

本節ではまず、形容詞由来の不変化詞を持つ動詞について概要を把握するため、形容詞に関して不変化詞動詞の有無を調査し、前置詞と比較する。その後、形容詞由来の不変化詞 *gleich* を持つ不変化詞動詞についてコーパ

ス分析を行い、不変化詞（動詞）と与格の項の実現との関連を調査する。

3.1 形容詞に由来する動詞不変化詞

ここでは、形容詞由来の動詞不変化詞について概要を確認する。形容詞のうちどの程度の割合が不変化詞として機能するのかを示す。

まず、使用頻度が上位の形容詞について調査を行った。「ドイツ語基本単語 5000」(大園 2015, 2019)のうち、使用頻度順1位から500位の語(レベル1A)から形容詞を抽出したところ75語が該当した。それらの形容詞を不変化詞とする複合動詞の有無を Duden Universalwörterbuch (2015) で確認したところ、alt, bekannt, besser など35語(47%)で不変化詞動詞が見出し語として記載されていた(計348動詞)。なお、上記のレベル1Aに含まれる前置詞27語においては、ab, an, auf など22の前置詞(81%)が不変化詞動詞の不変化詞もしくは接頭辞動詞の接頭辞(非分離動詞の前綴り)として記載されている⁵⁾。基本単語500位までの範囲では、動詞不変化詞となる形容詞の数は少なくないが、不変化詞や接頭辞となる前置詞に比べて低い割合であることが分かる。

表1 対応する不変化詞(接頭辞)を持つ複合動詞の有無

	有	無	計
形容詞	35 (47%)	40 (53%)	75
前置詞	22 (81%)	5 (19%)	27

続いて、与格と共起する形容詞について調査を行った。Engel (1996: 592f., 2009: 354f.) が与格補足語(Dativergänzung)を取る形容詞として挙げた計69語を対象とし、動詞不変化詞となる複合動詞が見出し語として記載されているかを Duden Universalwörterbuch (2015) で調査した。その結果、14の形容詞(20%)で見出し語となる動詞が収集された(計57動詞)。該当する形容詞の割合はさらに低くなっている。不変化詞動詞の数と共に、該当する形容詞を以下に挙げる。比較的多くの動詞が確認されたのは、fern, gleich, klar, naheであった⁶⁾。

(6) ähnlich (2), bekannt (3), fern (12), fremd (3), gleich (11), klar (8),

lästig (1), lieb (3), nahe (7), recht (2), schuldig (1), wert (2), wichtig (2)

なお、先の前置詞のうち与格の項のみを取る代表的なものについて、見出し語となる不変化詞動詞の数を調査したところ、以下の結果となった。(7) aus (512), bei (40), mit (71), nach (160), zu (189)

(6)と(7)でそれぞれ不変化詞動詞の数が最も多い fern と aus を比較すると約 43 倍となる。形容詞と前置詞ではこの点でも大きな相違がみられた。

以上では、Stiebels (1996: 38) が指摘するように対応する不変化詞動詞を持つ形容詞の割合は前置詞より低く、さらに与格と共起する形容詞については不変化詞動詞の数も前置詞より大幅に少なく、生産性が低いことが確認された。

3.2 事例分析：動詞不変化詞 gleich

本節では、動詞不変化詞 gleich と項の実現との関連について、コーパス調査を行う。具体的には与格の項の実現に規則性が認められるかを探る。

上記でも挙げた動詞 gleichstellen の文は、与格の指示対象と対格の指示対象を対等に扱うという意味内容を表す。以下の例文 (8a) のような「その労働者 (den Arbeiter) をその社員 (dem Angestellten) と同等に扱う」という文では、与格の項が「比較の基準」を表す。この基準は b 文のように mit を伴う前置詞句で表すこともある。また c 文のように与格が現れない文もある。

(8) a. Man wollte den Arbeiter dem Angestellten gleichstellen.

b. Man wollte den Arbeiter mit dem Angestellten gleichstellen.

c. Man wollte die Arbeiter der verschiedenen Zweige gehalten gleichstellen.

このような与格の項は、不変化詞 gleich を持つ他の動詞でも実現するのだろうか、mit 前置詞句による交替は常に可能であるのか、また与格の項の実現や交替に規則性がみられるのか、という点について以下で調査する。

なお、Duden Universalwörterbuch (2015: 736) の見出し語 gleich で挙げられている例で、比較の基準が明示されるものは次の通りである：形容詞の付加語的用法において wie が現れる表現が 2 例 (die gleichen Gesichter wie gestern 等)、述語的用法で与格が現れる表現が 1 例 (seinem Vorbild gleich zu werden versuchen)、イディオムの用法で与格を伴うものが 1 例 (jemandem

gleich sein)であった。また雅語である前置詞としての見出し語でも与格の表現が1例挙げられている(sie hüpfte gleich einem Ball)。

上記3.1の調査で収集したgleichを伴う不変化詞動詞11語のうち、本稿では他動詞であるgleichbehandeln, gleichmachen, gleichrichten, gleichschalten, gleichsetzen, gleichtun, gleichstellenの7つを対象を絞る。これらの各動詞の事例をコーパスから収集し、共起する与格とmit前置詞句、すなわち比較基準の項の実現を観察する。使用するコーパスはInstitut der Deutschen Sprache (IDS)によるDeutsche Referenzkorpus (DeReKo-2020-I)のアーカイブW - Archiv der geschriebenen Spracheとする⁷⁾。収集する文はdass文に限定する。なお能動文と受動文の両方を対象とするが、以下では説明の都合上、能動文の対格と受動文の主格の項を合わせて対格として扱う⁸⁾。

コーパス調査の結果、収集した事例は、比較の基準を表す与格とmit前置詞句を持つ文が共に現れる動詞(タイプA; gleichstellen, gleichsetzen, gleichschalten)、与格が現れ、mit前置詞句がほぼ現れない動詞(タイプB; gleichtun, gleichmachen)、与格が現れずmit前置詞句のみが現れる動詞(タイプC; gleichbehandeln)、与格もmit前置詞句もともに現れない動詞(タイプD; gleichrichten)の4タイプに分かれた。事例数を次の表2にまとめて示す。

表2 事例中の比較基準の実現

動詞	与格	mit	なし	その他	計	タイプ
gleichstellen	199	110	116	-	425	A
gleichsetzen	19	237	27	-	283	A
gleichschalten	8	14	167	-	189	A
gleichtun	525	0	1	-	526	B
gleichmachen	364	2	52	-	418	B
gleichbehandeln	0	21	288	12*	321	C
gleichrichten	0	0	13	-	13	D

* その他12例: wie 9例, gegenüber 2例, unter(einander) 1例

3.3 考察

まず、与格も mit 前置詞句も現れる動詞、タイプ A (gleichstellen, gleichsetzen, gleichschalten) の文では、いずれも対格の指示対象を何か (与格・mit 前置詞句の指示対象) と gleich の状態にする、すなわち同等に扱う、同一視する、あるいは合わせるといった意味が表現される。基礎動詞には空間的移動を表す stellen, setzen, (機械などの) スイッチの切り替えを表す schalten といういずれも他者の変化を引き起こす動詞が使われており、その変化の結果状態を表すのが (方向の前置詞句等ではなく) gleich である。

(9) a. dass er einem 15-Jährigen gleichgestellt werden muss (NKU02/APR.02336 Nordkurier, 08.04.2002)

b. daß wir solche Partnerschaften nicht mit der Ehe gleichstellen. (STE99/APR.00184 Stern, 22.04.1999)

(10) a. dass Langen das WM-Gold einem Olympia-Erfolg gleichsetzte. (NZZ01/JAN.04283 NZZ, 29.01.2001, S. 42)

b. dass er Macht viel mit militärischer Stärke gleichsetzt. (P18/FEB.01044 Die Presse, 08.02.2018, S. 4)

(11) a. dass die SP den Gewerkschaften gleichgeschaltet wird. (E05/FEB.02316 Tages-Anzeiger, 23.02.2005, S. 10)

b. dass die Interessen des Managements mit denen der Aktionäre gleichgeschaltet sind. (U07/MAR.04977 SZ, 28.03.2007, S. 17)

これらの事例は、具体的な物質の状態変化というよりも、適応の度合いや (主語による) 評価などにおいて、対格指示物を gleich (+比較の基準) の表す状態に変化させるという文意味であり、結果構文と類似した意味構造を持つ。このような文では比較の基準を表す項は与格でも mit 前置詞句でも実現している。またこの項が現れない場合もある。以下の例文 (12a) のように対格が複数の名詞で比較基準が相互的に表される文や、b 文のように比較の基準が文脈に含意される文が該当する。また gleichschalten の用法のうち「統制する」という意では c 文のように比較の基準が示されない。

(12) a. Dass Sie Flughafen und Sozialhilfe gleichstellen, (T03/JUN.28548 taz, 12.06.2003, S. 22)

b. dass Behinderte immer noch nicht gleichgestellt sind. (NZZ04/MAR.01376 NZZ, 09.03.2004, S. 53)

c. dass die rechtsnationale Fidesz-Regierung die Medien gleichschaltet. (E11/
JUL.01494 Tages-Anzeiger, 12.07.2011, S. 7)

次に、主に与格が実現する動詞、タイプ B (gleich tun, gleich machen) の文ではイディオム的な用法が中心である。gleich tun のすべての事例で対格の項に非人称の es などが現れ、与格指示対象の真似をする、あるいは与格指示対象に匹敵する、という文意となる。すなわち gleich で比較されるのは主格と与格である。なお、対格は es (518 例)、dies (4 例)、alles/das/dieses (各 1 例) であった。また gleich machen の一部の事例 (11 例) も対格が非人称の es であり、同様の意味構造を表している。この用法において与格は基本的に省略されていない⁹⁾。

(13)a. dass er es seinem Vater gleich tun wird (NZS13/DEZ.00350 NZZ am
Sonntag, 15.12.2013, S. 17)

b. dass Jugendliche es später den Erwachsenen gleich machen wollen. (M15/
FEB.03285 Mannh. Morgen, 11.02.2015, S. 14)

また、gleich machen の大部分の事例 (350 例) では与格が dem Erdboden あるいは dem Boden を表し、対格指示物 (町や建物など) を地面と同じくするという表現で「(町などを) 破壊する」という意味を表す。この場合、表現が固定し、与格が mit 前置詞句と交替されることはない。

(14) dass er Teile Fidschis dem Erdboden gleich machte. (A12/DEZ.07226 St.
Galler Tagbl., 18.12.2012, S. 8)

このように gleich machen, gleich tun の事例で主に与格が用いられるのはイディオム的な用法によると考えられる。なお、gleich machen の事例のうち mit 前置詞句が現れる文と比較基準が実現しない文は、タイプ A と同様の意味構造を表している。

(15)a. dass ihre Kinder mit anderen Kindern, die nichts dafür können,
gleich gemacht werden, (Protokoll der Sitzung des Parlaments Sächsischer
Landtag am 13.12.2012 [S. 6921])

b. dass man alle Menschen gleich mache. (Z07/NOV.01156 Zeit, 29.11.2007,
S. 4)

その一方、与格の例が収集されないタイプ C, gleich behandeln の文は mit 前置詞句を用いたイディオムを表す訳ではない。文意味としては、対格の指示物を mit 前置詞句の指示物と同様に扱うという、タイプ A と若

干類似した文意味を示す。しかし基礎動詞 *behandeln* は、結果状態ではなく動作の様態を伴う動詞であり、不変化詞として加わった *gleich* がその様態を表す。以下の例文では、天然ガスの扱いが石炭や核燃料の扱いと同じになるというように、比較しているのは指示物ではなく、対格指示物に対する行為と *mit* 前置詞句の指示物に対する行為であると考えられる。

(16) dass ab 1. Januar 2000 Erdgas bei der Stromerzeugung mit Kohle und Atombrennstoffen gleichbehandelt und nicht mehr besteuert wird. (L99/AUG.56836 Berliner Morgenpost, 26.08.1999, S. 2)

この点がタイプ A との相違であり、比較の基準が与格で表現されない理由であると推測される。ドイツ語では副詞は格支配しないが (Duden Grammatik 2009: 806ff.), 形容詞 *gleich* が動詞不変化詞として副詞的役割を果たす場合もこれに該当し、そのため比較の基準は与格ではなく *mit* 前置詞句で実現するのであろう。また、比較基準を表す項が *mit* 前置詞句だけでなく、*wie* 句などで実現する点もこの動詞の文に特徴的である。井口 (2016: 29ff.) では *ähnlich* について与格と共起する場合は個体間の比較がなされるが、*wie* 句が実現する場合、命題と命題の類似性が描写されると述べている。例文 (17) は「伝統的なサムライの刀の扱い」を「鉄砲の扱い」と同様にするという意であり、命題と命題の比較が行われている。

(17) dass das Gesetz das traditionelle Schwert der Samurai gleichbehandelt wie Feuerwaffen. (E13/JAN.01159 Tages-Anzeiger, 14.01.2013, S. 9)

一方、個体間の比較がなされる他のタイプの文では比較基準が *wie* 句で実現していない。イディオムであるタイプ B の例文 (13) 等も不変化詞 *gleich* が副詞的であると解釈できるが、主格と与格の指示物すなわち個体間の比較であるため与格を用いる可能性もある。不変化詞 *gleich* を伴う動詞でも *ähnlich* の場合と同様の使い分けがあると考えられる。

なお、*gleichbehandeln* の事例では比較基準が実現しない文が最も高い割合を占める。その多くは対格が複数の名詞である。

(18) dass alle Lehrlinge in Lehrwerkstätten gleichbehandelt werden (BVZ11/JUL.00011 NÖN, 14.07.2011)

最後に、与格も *mit* 前置詞句も実現しないタイプ D、*gleichrichten* の事例には比較基準の存在を前提としない文がある。以下の例文 (19a) は交流電圧を直流電流 (*Gleichstrom*) にするという意味であり、*gleich* は比較

の意味を持たない。また、b文のように対格（受動文の主格）が複数の名詞 *Interessen, Gedanken, Kräfte* 等を表し、複数の物が互いに同じ方向性を示すようにするという意味の文もある。比較基準は実現しないが、*gleich* が対格指示物の結果状態を表す点でタイプDはタイプAと共通している。

(19)a. dass man deren Wechsellspannung natürlich auch gleichrichten kann, (WDD11/B57.25270 Wikipedia; Diskussion: Bürstenloser Gleichstrommotor, (Letzte Änderung 17.1.2011), 29.10.2011)

b. dass die Interessen der Mitarbeiter und die der Kunden gleichgerichtet sind (B14/MAI.00161 BLZ, 03.05.2014)

以上、不変化詞 *gleich* を伴う不変化詞動詞の他動詞文では、*gleich* が結果構文の二次述語と類似した機能を持つ場合、比較の基準を表す項は与格もしくは *mit* 前置詞句で実現すること、イディオムの用法の場合は与格のみが用いられ、*gleich* が動作の様態を表現する場合、与格は実現せず、*mit* 前置詞句等が用いられることを示した。

4. 結語

本稿では、第一に動詞不変化詞となる形容詞は前置詞に比べて割合が低いこと、与格と共起する形容詞では与格支配の前置詞と比べ、対応する不変化詞動詞の数が大幅に少ないことを述べ、形容詞由来の不変化詞は生産性が低いことを提示した。第二に、不変化詞 *gleich* を伴う他動詞について、与格の項の実現には規則性が認められることが明らかになった。不変化詞が結果状態を表す場合は与格も *mit* 前置詞句も共起可能で、様態を表す場合は *mit* 前置詞句を伴い、イディオムの用法では与格を伴う。比較の基準を表す項は等しく与格の項で現れるのではなく、不変化詞の機能が与格の実現に影響を与えると仮定できる。また、これらのタイプの特徴は岡本 (2001) の言及した形容詞を不変化詞とする不変化詞動詞の結果構文や、Lüdeling (2001: 148ff.) の述べる不変化詞動詞の結果構文、副詞 + 動詞の構造をなす不変化詞動詞、またイディオムの的にレキシコンの中にリスト化された構文 (Lüdeling 2001: 77ff.) とも類似している。前置詞や副詞に比べて周辺的で、生産性の低い与格支配の形容詞に由来する不変化詞動詞も、語彙化の程度が高いイディオムだけでなく、典型的な不変化詞動詞も形成することが明らかになった。今後は他の不変化詞と項の構造についても調

査を進めていきたい。

注

- 1) これまでの諸研究では trennbares Präfixe, Halbpräfixe, postponierbares Präverb, Nachverb, Verbpartikel, Verbzusatz など の名称が用いられている (Duden Grammatik 2009: 696f.)。
- 2) 第一要素が名詞の場合も基本的に分かち書きとされている。eislaufen, leidtun, teilnehmen など名詞の意味が薄れた語は一語で書かれ, achtgeben/Acht geben, haltmachen/Halt machen のような場合は一語でも分かち書きでも認められている。第一要素が動詞や名詞以外の場合も分かち書きされることもある (Duden Rechtschreibung 2017: 49ff.)。
- 3) いわゆる非分離動詞に相当する。
- 4) 岡本 (2001: 4f.) では第 2 類として stillhalten など自動詞を挙げている。また, この a 文については「基底動詞は, halten であり, x を y の状態に保つという構造を持つために, 第 2 類に似た状態描写の意味を獲得する」としている (下線部は筆者による)。
- 5) 前置詞 in は不変化詞 ein と対応すると考える。
- 6) 見出し語数が上位の形容詞に対応する不変化動詞の例は次の通りである : fern (fernbedienen, fernbleiben, ferngucken, fernhalten 等), gleich (gleichbehandeln, gleichkommen, gleichmachen, gleichrichten 等), klar (klargehen, klarkommen, klar-kriegen, klarlegen 等), nahe (nahebringen, nahegehen, nahekommen, nahelegen 等)
- 7) アーカイブ W - Archiv der geschriebenen Sprache の一般公開版には現在約 3400 万テキスト, 98 億語が収録され, 18 世紀から現代までの様々な種類のテキストが含まれている。新聞と雑誌については定期的に新版が追加されており, アーカイブ全体において占める割合は高い。詳細は <http://www.ids-mannheim.de/cosmas2/projekt/referenz/archive.html> に記載がある。
- 8) 今回は検索結果として提示された全ての文から該当するものを手作業で抽出した。検索結果の件数が 600 を超える動詞については, 無作為の 500 を対象とした。動詞ごとの検索結果全ての件数は次の通りである : gleichbehandeln (390), gleichmachen (509), gleichrichten (58), gleichschalten (362), gleichsetzen (500/6428), gleichtun (593), gleichstellen (500/2803)

9) 与格が実現しない文が1例見られたが、以下のように文脈から比較の基準は Eltern であると解釈できる。

Mit welcher Partei sich eine Person identifizierte, hing überwiegend von der sozialen Prägung im Elternhaus ab. Je nachdem, ob hier die Demokraten oder die Republikaner hochgehalten wurden, waren die Chancen überaus groß, dass es der Nachwuchs gleichtat. (SOL10/DEZ.01409 SPON, 16.12.2010)

参考文献

- Duden Grammatik (2009): Die Grammatik. Unentbehrlich für richtiges Deutsch. 8., überarbeitete Auflage. Mannheim/Zürich: Dudenverlag.
- Duden Rechtschreibung (2017): Duden – Die deutsche Rechtschreibung. 27., völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage. Berlin: Dudenverlag.
- Duden Universalwörterbuch (2015): Duden Deutsches Universalwörterbuch. 8., überarbeitete und erweiterte Auflage. Berlin: Dudenverlag.
- Engel, Ulrich (1996): Deutsche Grammatik. 3., korrigierte Auflage. Heidelberg: Julius Groos Verlag.
- Engel, Ulrich (2009): Deutsche Grammatik. Neubearbeitung, 2., durchgesehene Auflage. München: Iudicium Verlag.
- Felfe, Marc (2012): Das System der Partikelverben mit „an“ Eine konstruktionsgrammatische Untersuchung. Berlin/Boston: De Gruyter.
- 井口真一 (2016) : ドイツ語形容詞 ähnlich における与格目的語の出現. In : ドイツ文法理論研究会編 : 『エネルギー』 第 41 号. 23-38.
- Lüdeling, Anke (2001): On Particle Verbs and Similar Constructions in German. Stanford, California: CSLI Publications.
- Müller, Stefan (2006): Resultativkonstruktionen, Partikelverben und syntaktische vs. lexikonbasierte Konstruktionen. In: Fischer, Kerstin/Stefanowitsch, Anatol (Hrsg.): Konstruktionsgrammatik. Von der Anwendung zur Theorie. Tübingen: Stauffenburg.
- 岡本順治 (2001) : ドイツ語における不変化詞動詞の統語的・意味的連続性. In: 『東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究』 研究成果報告書 IV. 筑波大学. (<https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20050003/pdfs/continuity.pdf>) 1-13.
- Olsen, Susan (1997): Der Dativ bei Partikelverben. In: Vater, Heinz, Christa Dürscheid,

Karl Heinz Ramers, and Monika Schwarz (Hrsg): Sprache im Fokus: Festschrift für Heinz Vater zum 65. Geburtstag. Tübingen: Niemeyer. 307-328.

大園正彦 (2015) : 日本人学習者のための, 頻度に基づくドイツ語基本単語 5000 一概要, 検証, 展望. In: 『人文論集』(静岡大学人文社会科学部) 66 (1), 117-135.

大園正彦 (2019) : ドイツ語基本単語 5000 ~日本人学習者のための, 頻度に基づくドイツ語基本単語~. (<http://moz.la.coocan.jp/wortschatz/index.html>, Stand: 2.6.2019) (閲覧日: 2020年8月22日)

Stiebels, Barbara (1996): Argumente und Adjunkte: Zum semantischen Beitrag von verbalen Präfixen und Partikeln (Studia Grammatica 39). Berlin: Akademie Verlag.